

# 柏市子どもの貧困対策推進計画の策定 に係るアンケートの結果報告について

令和6年3月28日

柏市 こども部 こども福祉課

# 子どもの生活実態アンケートについて

## 【調査の目的】

「令和6年度 第二期柏市子どもの貧困対策推進計画」を策定するにあたり、子育て世代の生活実態や子どもの貧困に関する現状や課題、意識やニーズを把握し、基礎資料とするために実施

## 【実施方法及び実施時期】

調査は郵送による調査依頼後、WEB調査方式で、令和5年12月15日～令和6年1月12日（WEB開設期間）

## 【調査対象及び有効回答数・有効回収率】

調査対象（調査票種類）は以下の2種で行い、総計3,000世帯（保護者・こども計6,000人）に依頼し、総計1,810件の有効回答（有効回収率30.2%）

調査対象（調査票種類）	依頼数	有効回答数	有効回収率
①小学生・中学生の保護者 （小学5年生・中学2年生の保護者）	各1,500 （計3,000）	1,074	35.8%
②こども（小学5年生・中学2年生）	各1,500 （計3,000）	736	24.5%

# 子どもの生活実態調査に係るヒアリングについて

## 【趣旨】

次年度の第二期柏市子どもの貧困対策推進計画の策定に向けて、生活に課題を抱える世帯の実態を把握することを目的に、日頃から困難を抱える子どもや家庭への支援に関わっている支援者のかたに対してヒアリング調査を実施

## 【内容】（ヒアリングは1時間程度）

- ①経済的に課題を抱える世帯の様子（保護者，子ども）
- ②上記世帯との関わり（支援）で気づいた課題
- ③必要だと想定される支援

## 【実施団体】 2024.3.8現在

児童家庭支援センター，子どものショートステイ実施事業者  
かしわ地域若者サポートステーション，柏市地域支援センター あいネット  
ハローワーク松戸，スクールソーシャルワーカー，民生委員・主任児童委員  
母子・父子自立支援員  
※柏市社会福祉協議会，市内小中学校などへのヒアリングを今後も予定

## 聞き取りで多かった意見

- 金銭管理が苦手な保護者が多い。家計支援が必要。家がゴミだらけの場合が多い。
- 外国籍の方は手紙が読めない、支援の相談場所が分からない、手続き方法が分からない場合がある。
- 保護者の就労において、就労が困難かたもいる。その場合の連携は必要
- 学習支援事業を推進してほしい。いろいろな人と会える環境を増やしてほしい。学習支援を利用している場合、出席日数に含めてもらえるとよい。
- 対象世帯と関わる場合、他課の係わりが見えない。課題が大きくなってからでは支援がしづらい。それぞれが行う事業の情報をもとに市、地域で見守りができる体制が必要
- 離婚前の準備として「住む場所」の確保が必要。衣食住の観点からも重要な支援
- 精神的に不安定な保護者が多く、第三者の関わりを要する。養育能力が低いかたが多い。
- こどもの就労支援において、発達障害でうまくいかなかったり、アルバイト未経験で働くイメージがない場合は離職につながりやすい。

# 児童家庭支援センター

## 児童家庭福祉に関する地域相談機関

（地域の児童の福祉に関する各般の問題につき、児童に関する家庭その他からの相談のうち専門的な知識及び技術を必要とするものに応じ、必要な助言を行う。保護を要する児童又はその保護者に対する指導を行う）

### ①経済的に課題を抱える世帯の様子（保護者、こども）

#### ○保護者の特徴

- ・初めに繋がる支援先で「拒否」されると、その後の支援先も介入することが難しい。
- ・人を家にあげる、相談することが難しく、拒否されるかたも多い。

#### ○子どもの特徴

- ・栄養が行き届いていない。家の中がものにあふれている。家がゴミ屋敷だった御家庭もある。
- ・不登校の児童が増えている。

### ②上記世帯との関わり（支援）で気づいた課題

コロナ禍、物価高騰の影響により、家計が苦しい家庭が多い

### ③必要だと想定される支援

#### ○食の支援

- ・保護者が精神疾患を持っていたり、ひとり親の場合は、料理をすることが困難なため調理されたものを求めることが多い。DV避難の場合で、料理をする気力がある場合は材料でも可能。
- ・調理されていないものでも、米やうどん、パンなど主食類は喜ばれる。

#### ○学習支援の場所が増えてほしい。

- ・出席日数をカウントしてもらえるとよい。
- ・家庭の状況を把握しつつ、学習できる（遊びでも可）場所→お兄さんお姉さん世代と関われる場所

# 子どものショートステイ実施事業者

保護者の疾病や仕事等の事由により児童の養育が一時的に困難となった場合、身体的・精神的負担の軽減が必要な場合に児童を一時的に預かる場所

## ①経済的に課題を抱える世帯の様子（保護者，こども）

### ○こどもの特徴

- ・こどもが大きくなると保護者の干渉が少なくなる。大きくなるにつれて子どもも自分の家が他の家庭と違うことが分かってくる。

## ②上記世帯との関わり（支援）で気づいた課題

児童家庭支援センターと同じ

## ③必要だと想定される支援

### ○ショートステイの予約を優先順位を検討すること

- ・現在は優先度を決めずに予約が取れば利用できるため、予約する方法は検討課題。
- ・他市では市民が直接予約を取ることができるが、柏市は取れない。
- ・他市ではタクシー送迎を行っている。

### ○ショートステイの利用制限の緩和，枠の拡大

- ・ショートステイを使っていると学校が行けない。→使っていても学校が行けるようになると良い。
- ・シェルターとして使える施設があるといい。柏市との契約だと「こどものみ」。事業者の判断で親も入れたことがある。
- ・親子ショートステイ。家事支援で家に入るのを拒否するのであれば、短期間でも親子共に受け入れる場所があるといい。

### ○必要な支援が聞き取れる場所が欲しい

- ・こどもを通して家庭に必要な支援が分かってくる。新しい洋服が欲しいとか、毎日同じパンを食べている等。ふとしたタイミングでそういった話を聞ける場があると良い。

# かしわ就労自立サポートセンター（ハローワーク松戸） 1 / 2

生活保護受給者等生活困窮者に対する福祉から就労支援への連携充実を図り、就労による早期の自立を支援する機関

## ① 経済的に課題を抱える世帯の様子（保護者，こども）

### ○保護者の特徴

- ・条件がマッチせず，通い続けているかたがいる
  - ・就労の他にも課題がある家庭が多い。  
事例：利用者のなかには子が不登校などが半分以上ついている。課題別に支援はあるが途切れているのが現状。
  - ・中卒の割合が高い。
  - ・発達障害グレーゾーンのかたが多い。
- 職歴をみると，1年仕事が続かず，職場を転々としている。職場内のコミュニケーションができず，言葉以外をくみ取ることができない。

## ② 上記世帯との関わり（支援）で気づいた課題

### ・キャリア教育に課題

- アルバイト未経験で就労を探すのは難しい。生活保護世帯は，普段の環境から働かなくても良いと考えてしまう。母子・父子自立支援員からつながるほうが，離脱することが多い。ひとり親のかたは忙しく，転職に対する意志が弱いと来なくなる。
- ・離職率が高い。
  - ・社会経験の有無
  - ・児童扶養手当が全部停止になったかたの課題
- 児童扶養手当は世帯の収入をみる。同居家族の収入が高く全部停止になったが，親子の関係が悪くお金を自由に使えない場合もある。また，全部停止になった場合の資金繰りをどうするか方法がない家庭がある。

# かしわ就労自立サポートセンター（ハローワーク松戸） 2/2

## ③必要だと想定される支援

- ・生活保護を抜け出すための後押し，生活保護で良いと考えてしまうかたへのアプローチ
- ・児童扶養手当の支給終了後の資金繰り
- ・早期の就労支援
- ・なかなか就職が継続しないかたをサポステにつないだことがある。  
⇒ハローワーク，サポステ，シルバー人材等のつながりが強化されると良い。
- ・体験就労の機会

# かしわ地域若者サポートステーション 1/2

働くことに悩みを抱える15～49歳の仕事に就いていない人に対して、就職、職場定着までの就労支援する機関

## ①経済的に課題を抱える世帯の様子（保護者、こども）

- ・障害（グレーゾーン）があって、本人も家族も自覚がないが、世の中にうまく出られない人  
⇒親も経済的に大変な人が多い。家族も放置している。
- ・以前は親は経済的に余裕があり、親がいなくなったときの問題が中心であった。今はひとり親家庭も多く、生活が厳しい⇒こどもをなんとかしてほしいと相談に来る人もいる。10代のこどもは親が連れてくるのが7割。
- ・ハローワークは紹介されたら自力で就職できる人が多いが、集団生活ができないこどもがサポステに来る。
- ・不登校である子が多い⇒不登校の理由は不明。コロナ禍で対人スキルが落ちているように感じる。親もネグレクト気味。学力高くないうえ、発達障害・うつ状態などが混在している。  
⇒サポステに通えるかが問題。サポステでは適性検査（処理能力を診断する）も実施している。

## ②上記世帯との関わり（支援）で気づいた課題

- ・家族のサポート力がない。経済的だけでなく、精神的にも。ネグレクトや、気持ちがあってもできなかったり、気持ちすらない家庭も多い。こどもが発達障害等で上手くいかない場合が多い。虐待等がある家庭もある。
- ・発達障害の繋ぎ先について  
⇒障害をもつかたに関しては病院にも同行する。障害を受け入れないこどもは、まずアルバイトをしてもらい、うまくいかなかったときに検査を紹介、病院に行ってもらおう。親が認めない人はサポステで職業訓練を経験してもらい、上手くいかなかった際に案内をする。

# かしわ地域若者サポートステーション 2/2

## ③必要だと想定される支援

- ・重層的支援→あいねっと、児童相談所、生活支援課、あえるワークス、社協と連携ができています。しかしながら解決策が見いだせないことが多い。1箇所支援しているよりは良い。
- ・10代の中学・高校でドロップアウトした人向けの職業訓練機関が欲しい。勤怠が難しい、集団行動が難しいため。
- ・学校生活は働くことをイメージしていないため、働く気がない。
- ・サポステが職業訓練機関であるが、まずサポステに来てくれない。来れない人に対するアプローチ。送迎があると良い。バスが無料であると利便性が増す。かつ、来れて食べられたらなお良い。サポステ周辺に行ける範囲のところにこども食堂があり、食事ができて、コミュニケーションがとれればよい。そこまでしないと18歳くらいのこどもは来ない。

# 柏市地域支援センター あいネット 1/2

失業等で生活に困っている方の支援を行う。障害の有無や年齢を問わず、どんな相談もできる機関

## ①経済的に課題を抱える世帯の様子（保護者、こども）

### ○保護者の特徴

- ・DV, 家庭内別居, ひとり親, 離婚再婚が多いかた, 精神障害（親・子）のかたが来る。あいネットは精神障害が多いかなという印象。あと外国籍。
- ・男性は, 支援をよしとせず, 月日が必要なので大変。

### ○こどもの特徴

- ・保護者の価値観が投影されている。親がキレイな身なりの場合, こどもにも色々与えていたりするので（ゲームとか）, ぱっと見では困窮かどうかわからない。こどもはそれが普通だからおかしさに気づけない。経済的に親に依存しているし, 反発するよりも, 諦めること（進学とか）が多い。

## ②上記世帯との関わり（支援）で気づいた課題

- ・親自体の養育能力は低い。
- ・こどもがこどもらしい生活をしておらず, こどもを見る大人が親しいないので比べることができない。お金の支援も大事だが, こどものいる世帯はお金だけでは解決しない。
- ・こどもからの相談は少なく, 親からが多い。生活困窮だと子の困りごとはわかりにくい。
- ・男性は支援を嫌煙するかたが多いように感じる。

# 柏市地域支援センター あいネット 2/2

## ③必要だと想定される支援

### ○居場所支援

- ・どの年代のこどもにとっても理想となる大人像，いろんな大人と会える環境を増やしてほしい。
- ・親，こども別でもいいので，整えられた環境を経験できる場所を地域に作ってほしい。

### ○教育機関を通じた支援

- ・外国籍の人は学校のプリントを読めないし，支援が必要なひとも力が無く，読めない。こどもが申請できるようなものがあるといい。
- ・土日の学校に行政が赴き，相談のような場を設けるとよい。
- ・学校が変わるタイミングでも，切れ目なくフォローできる体制があるといい。
- ・長期休みの時も学校給食を続けて欲しい。こども食堂は困窮のイメージが強く行きづらさがあるが，学校は拠点になれる。

### ○DV

- ・育児とDVの違いを学ぶ場があれば親子ともにいいと思う。こどもが親や学校を挟まず，直接市に相談できるといい。
- ・DVですぐに避難できる場所がほしい。親のレスパイトの場所にもなればいい。

### ○家事（食事）支援

こどもには掃除とか生活環境の意識付けさせたい。

他の家がどうなっているか？こどもは知らない。こどもの支援はお金だけない，一般の感覚が大事。

- ・掃除機がない家庭もある。光熱費がかかる・掃除をしていない等でお風呂の浴槽は使わない。
- ・こどもが困っているとき（ごはんが一食とか），もう少し強めに介入できればと思う。

### ○同世代の子へのアプローチ

- ・周りのこどもが，困っている子を助けられるような仕組みがあるといいのではないか。

### ○スクールソーシャルワーカー

- ・中学校を卒業するとスクールソーシャルワーカーの繋がりが一回切れてしまい，支援が途切れる。

# スクールソーシャルワーカー 1/2

問題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒が置かれた環境へ働き掛けたり、関係機関等と連携するなどして課題解決していく支援者

## ①経済的に課題を抱える世帯の様子（保護者，こども）

- ・傾向としては圧倒的に母子世帯が多い。大体が不登校に絡んでいる。家庭としては、DVや保護者の精神疾患があり働けなくなったり、働いていてもパートで細々と働いていることが多い。
- ・経済的困窮は大人にとって最大のストレス。家庭や子育てに余裕がなくなる。
- ・外国籍の御家庭への対応は力を入れなければならないところ。父母共に外国人である家庭も多い。市役所の手続きに同行することもある。助けを求めてくれるかただと良いが。
- ・経済的困難家庭の印象として精神的に病んでいる保護者が多い（DVなどで）。心療内科に通っていたり、精神障害者手帳を持っている人もいる。こどもどころではない。
- ・家族も孤立しているが、こどもも孤立している。

## ②上記世帯との関わり（支援）で気づいた課題

- ・保護者の「就労支援」も課題としてある。精神的に不安定ななかで正職員で週5日は厳しい。
- ・市の支援情報が入手しにくい家庭へのアプローチ。情報の発信，外国籍のかたが理解できるかどうかが大変。

# スクールソーシャルワーカー 2/2

## ③必要だと想定される支援

- ・学習支援が広がっていくと良い。（人と関わる、学力の遅れを取り戻すという点で）生活保護世帯は塾どころではない。まだまだ拡充してほしい。
- ・通学のための交通手段の支援  
→不登校の支援機関「きぼうの園」「教育支援センター」など、柏市は充実していると思うが、通学にかかる交通費等を出してもらえると良い。
- ・支援は早期発見、早期対応が大事。生まれた時からどう対処していくか、家庭が早く助けてといえる環境をつくるのが大事。
- ・給食の無償化などはありがたい。
- ・生活保護のかたは、そもそもお金の使い方がわかっていない人が多い。ごみ屋敷になってしまう家は、発想が「使い捨て」。物が買えないのではなく、たくさん買ってきて使い捨ててしまい、ごみが溜まる。
- ・なにをするにしても、手続きを簡単にすることが大事。電話1本でできたりすると手続きのハードルが低くなる。

# 民生委員・主任児童委員①ー1 1/2

地域における相談・支援のボランティア。厚生労働大臣より委嘱され、地域住民の一番身近な相談者

## ①経済的に課題を抱える世帯の様子（保護者，こども）

### ○保護者の特徴

- ・こちらから連絡がとれない人が多く，必要なときに都合よく連絡してくる。
- ・ママ友の横のつながりがないので，何年生から塾に通えばいいのかなどもわからない。
- ・精神疾患があることが多い（ADHD，片付けができない）
- ・お金の使い方の優先度に違和感がある人が多い。ネグレクトしてても自分の身なりはキレイ。

### ○こどもの特徴

- ・洗濯してない。母親が朝弱いから朝ごはん食べていない，給食頼り。家が汚いから必要なものが見つからない。
- ・細くて小さいこどもが多い。でもみんな母親が好き。母親が困りそうだとわかると，何も言わなくなる。

# 民生委員・主任児童委員①ー1 2/2

## ②上記世帯との関わり（支援）で気づいた課題

### ○生活保護

- ・主任児童委員には情報がないので、生活保護世帯かどうか事前にわからない。地域の民生委員には共有される。
- ・グレーな部分に該当する市民はアンケート調査ではわからないだろう。どこの部署にも当てはまらず、きっとグレーで苦しいんだろうなと思える人はいるが、繋がられない。（離婚はしてないけど別居中など）

### ○関われるタイミング

- ・要対協に入ってからではなく、赤ちゃんのときor生まれる前から関わっていれば、救えた家庭もある。
- ・情報が親に届きにくいし、相談するところがない。相談ってどこの誰に？ということもわからない。

### ○個人情報

- ・民生委員は情報がきたら動けるが、赤ちゃんが生まれた情報も知らない。健康づくり推進委員が赤ちゃん訪問しているが福祉の観点ではないため、その先につながっているか分からない。訪問時に困っているのがわかっていたら、子育てサロンにも誘えた。
- ・民生委員にまでくるときは、家庭は崩壊状態。見守り活動してくださいと言われるが、できることも少ない。
- ・不登校の子の情報は民生委員は把握できており、学校とは共有ができていたので、小学校1年生からは共有が図れている。
- ・就学すれば先生と繋がれるが、幼稚園保育園は行ってない家族もある。（むしろ怪しい家庭は行かない。）

## ③必要だと想定される支援

- ・母のケアをするところがないので、市が力を入れてくれるといい。参加費が必要なので（ケーキとかお茶代）補助金とかあるといい。
- ・ラコルタで開催している子育て中のサロン（乳幼児）は浸透していると感じる。学校に通っている親のサロン、サービスがあるといい。
- ・民生委員の役割は解決する側ではない。未然防止が役割で、最初から関わっていないと意味がない。みんな初めての子育てだから、何かしら心のよりどころがあればいい。

# 民生委員・主任児童委員②ー1 1/2

地域における相談・支援のボランティア。厚生労働大臣より委嘱され、地域住民の一番身近な相談者

## ①経済的に課題を抱える世帯の様子（保護者，こども）

### ○保護者の特徴

- ・精神疾患のある親が多い。朝起きられずこどもと一緒に寝ている。
- ・電子レンジ，炊飯器といった，当たり前の生活家電がない。
- ・喋りたいことに波がある。連絡ないときはこないが連絡が頻繁にくるときがある。

### ○こどもの特徴

- ・人懐っこい子が多く，好奇心が大きい。
- ・大人と関係を築くのは問題ないが，こども同士だと難しいように見える。料理教室などでこどもたちが一緒に過ごすのはいいかも。
- ・友達が少ない。大人より子のほうがシビア。同じ悩みを持つ共通の友達ができればいいと思う。
- ・こどもが自分で情報を得られれば，こども食堂などに行ける。

# 民生委員・主任児童委員②ー1 2/2

## ②上記世帯との関わり（支援）で気づいた課題

### ○外国籍

- ・感覚の違いがある。中卒で働けばいいと思っている。この地域はそこまで外国籍家庭問題になっていないが、繋がれていないのもある。連絡がつかない。

### ○（母）親のケア

- ・母のケアをして欲しい。お金の支援だけではなく、保健師が介入するとか。母の身なりはキレイ（会う度に髪色が違う）なのに、こどもは今日一食も食べていない。こどもの誕生日に何もしない。
- ・母が調理するのを当たり前と思わず、定期的に調理されたものを支給してほしい。いっそ、そういうこどもたちの料理教室を開くとかもいい。
- ・家中ゴミだらけのなか、親子二人で寝るだけ。
- ・家庭科の授業を機に生活力をつける。今は男の子も授業で裁縫とかするし、掃除洗濯のやり方を教えるのはいいかもしれない。

## ③必要だと想定される支援

- ・まず衣食住。土日だって食べてないのに、給食のない夏休み期間が心配。食事支援があったらいい。
- ・支援には信頼関係が大事。自分感覚でいかないこと。
- ・無料の食材配布（こども食堂で余った野菜、お米）  
→お米はこどもも焚けるから。ご飯にかけるレトルトとかあればなおいい。
- ・家計支援、家事支援が入っているところがある。
- ・学習支援もいいとは思いますが、案内の手紙は読まない。学校を通じて案内するなどしたほうがいい。
- ・小6卒業式、小1入学式の子の洋服。そのこどもだけ普段服で参加すると、周囲の人も気づく。
- ・困りごとを解消しようとアプローチをかけても、本人たちは困っていないので断られる。
- ・こどもは困っている。愛情が欲しいし、そういった家庭は兄弟格差もある。

# 母子・父子自立支援員

生活に関すること、養育費、就労、こどもの進学、離婚前などひとり親家庭の相談者

## ①経済的に課題を抱える世帯の様子（保護者、子ども）

### ○保護者の特徴

- ・繰り返し離婚が多い（2, 3回目の結婚）
- ・支援措置をかけてたり、元夫のDVから逃げた先の異性からもDVを受けてしまったり。再婚同士、夫のほうにも子どもがいて、前妻の子への養育費支払いがあるので、自分は貰えない場合がある。
- ・相談者の親も離婚、DV被害があったという連鎖を感じる。
- ・気になるのは精神疾患で、父母ともに精神疾患というのが増えている。  
精神疾患で妻が働けなかったり、夫が働けなくて離婚したりするケースもある。
- ・夫の収入が高いため、表面上は裕福だが、妻子にお金を渡さない。生活費、学費を渋られるケースもある。

## ②上記世帯との関わり（支援）で気づいた課題

- ・あいネットの家計相談を案内するけど、そこから先は把握できていない。
- ・家計管理ができていない人も多い。医療費控除できるのに、申告していない。余裕がないから手が回らない。
- ・知識と情報がないから、支援サービスが使えない。

## ③必要だと想定される支援

- ・夫より妻の稼ぎが悪いから、夫に支配されている。だからこそ、妻の経済的自立が必要  
→現在はあいネットを通じてサポセンを紹介している